

トヨタ自動車株式会社  
代表取締役社長兼執行役員  
豊田章男 様

日産自動車株式会社  
代表執行役社長兼最高経営責任者  
内田 誠 様

本田技研工業株式会社  
代表取締役社長兼最高経営責任者  
三部 俊博 様

2021年4月16日(金)

拝啓 時下ますますご盛栄の事とお慶び申し上げます。

世界各地で気候危機が深刻化する中、政府ならびに企業のリーダーが果たす役割はますます重要となっています。

昨年10月に菅総理大臣が2050年カーボンニュートラルを宣言して以降、この目標をどのように達成するかということが日本の直面する重要な課題となり、この重要な時期、日本経済の屋台骨を担うトヨタ、日産、ホンダといった日本を代表する企業の影響力は計り知れないものとなっています。

カーボンニュートラルの発表に加えて、政府は現在、日本の気候政策、特にパリ協定に基づく国別約束(NDC)の見直しを進めています。

菅総理が出席するバイデン大統領の気候に関する首脳会議や、11月にグラスゴーで開催されるCOP26会議を前に、日本は現在の政策と将来に向けた軌道を見直す必要があります。

貴社が所属する日本自動車工業会は、今年1月、日本のカーボンニュートラルの目標と再生可能エネルギーによる発電の必要性を支持する声明を発表しています。

このことを踏まえ、産業界のリーダーとして、また、世界的な影響力を持つ日本を代表する企業の代表として、以下の点についてお聞かせ願いたいと考えております。

1. 日本が、温室効果ガス排出を2030年までに2013年比で少なくとも50%削減するという、パリ協定に基づくNDC(国別削減目標)を発表することを支持しますか？ また、国連が目指す野心的な目標に沿い、日本政府がさらに高い排出削減を打ち出すことを支持しますか？
2. 日本の電源構成に占める再生可能エネルギーの目標を、2030年までに50%以上に引き上げるよう提唱しますか？
3. 米国やEUなどを含む貴社が事業を展開する国や地域において、野心的な再生可能エネルギーやNDC、自動車の排出基準を支持しますか？
4. 持続可能な未来の一部としてのモビリティについて貴社のビジョンを共有いただくために、私たちとの面談に応じていただけますか？

日本時間の本日午後から明日にかけ、日米首脳会談が行われ、4月22日には気候サミットも予定されています。私たちは、貴社と政府がこの機会を捉え、日本と世界のより良い未来を築くために貴社の影響力を活用し、早急に行動を起こし、真にグリーンで持続可能な未来の創造をリードしてくださることを願っています。

この書簡に対するご回答を、2021年4月21日(水)までに、グリーンピース宛の書面で、もしくは上記1-3へのご回答を含む形で貴社から公式発表していただきたく、よろしくお願い申し上げます。

敬具



グリーンピース・ジャパン  
事務局長  
サム・アネスリー



Trend Asia  
Executive Director, Yuyun  
Indradi



Sierra Club  
Executive Director, Michael  
Brune



Union of Concerned  
Scientists  
Director of Clean  
Transportation, Michelle  
Robinson



350.org Japan  
日本代表、横山隆美



Our Earth Is Worth Fighting For

League of Conservation  
Voters  
Legislative Director,  
Matthew Davis



Avaaz  
Campaign Climate Director,  
Paul Vollenweider



Australian Conservation  
Foundation  
Chief Executive Officer,  
Kelly O'Shanassy



Climate Council of Australia



Oil Change International